「職務満足」の視点からみた大学ラクロス部員に対する競技レベル別マネジメントの検討

A study on the management of reserve members of the university lacrosse club from the point of view job satisfaction

1K10C095-9　大山　大介
主査　木村　和彦 先生　　副査 作野　誠一 先生

【目的】

大学運動部は、競技力の向上および勝敗や記録の向上を目的としたスポーツ集団・組織である。その活動において、高度なコーチングやトレーニングなどに加え士気を高めるために運動部という組織のマネジメントもまた重要な要素であると考える。特にチームスポーツにおいては公式戦に出場できる選手は限られている。その一方で、毎年選手が入れ替わる学生スポーツにおいて、毎年良い結果を残していく為には、公式戦に出場できない控え選手のマネジメントが重要な課題になってくると考える。そこで、本研究では、早稲田大学ラクロス部を対象とし、レギュラーチームと控えチームとの運動部の活動に対する「職務満足」の要因の違いを分析し、控えチームにおいて部員の職務満足を向上させ、活動の促進につながるマネジメントのポイントを検討する。

【方法】

調査項目は、先行研究でも大学運動部のマネジメント研究に用いられている「職務満足」の概念を踏まえ、小野里ら(2013)[3)]の上武大学硬式野球部に対して実施した調査項目を参考に設定し、アンケート結果に対して以下の分析を行った。

① 「職務満足」に関する項目と部活・学生生活に対する満足の項目において、所属チーム、学年、役職・係の有無ごとに平均値、標準偏差を算出した。また、各項目ごとに各チーム、各学年、役職・係の有無の平均値の文散分析を行った。

② 小野里ら(2013)によって抽出された「F１　：チームへの貢献」「F２：自己努力」「F３：部員同士のコミュニケーション」、「F４：規律」「F５：自己コントロール」の５因子について各因子の因子得点を算出し、所属チーム、学年、役職・係の有無ごとの特徴的な反応を明らかにするため文散分析を行った。

③ 「職務満足」の各因子の部員の部活・学生生活に対する満足に及ぼす影響を明らかにするため、部活・学生生活に対する満足の２項目を従属変数、③で算出した「職務満足」の各因子を独立変数として重回帰分析を行った。

【結果】

① 所属チーム別、学年別、役職・係りの有無別に「職務満足」に関するいくつかの項目で、有意な差が見られた。特に、チームへの貢献に関わる項目でＡチームとＣチーム、役職係りの有と無で有意差が見られ、それぞれ前者が高い平均値を示した。また、２年と１年の間のコミュニケーションに関する質問項目が低い平均値を示した。

② 「F１：チームへの貢献」において、A チームの方がＣチーム、１年チームよりも高い因子得点を示し、Ｃチーム、新人チームの選手たちは自分たちの果している役割をあまり評価できていないことが明らかになった。役職・係がある部員の方が、役職・係の無い部員に比べて「F１：チームへの貢献」の因子得点が有意に高くなり、役職を割り振ることで選手の「F１：チームへの貢献」に影響を及ぼすことが明らかになった。

③ 本研究対象の部活動において、「ラクロス部に対する満足」「学生生活の満足に対する満足」を高める部員の動機づけ要因となっている職務満足の因子は「F１：チームへの貢献」「F３：部員同士のコミュニケーション」であることが明らかになった。

【考察・まとめ】

本研究対象の部活動において、競技レベル別に分けたチームごとに「職務満足」に差があることが明らかになった。また、「ラクロス部に対する満足」「学生生活に対する満足」を高める部員の動機づけ要因となっている職務満足の因子は「F１：チームへの貢献」「F３：部員同士のコミュニケーション」であることが明らかになった。また、それらの因子に関して、「役職」、「Ｃチームと 2 年生のチームへの貢献と自己成長の実感」、「練習等の活動が別である新人チームと他の部員のコミュニケーション」、の３点が控えチームの「職務満足」を高めていくためのポイントとなっていることが示唆された。